九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[035_1994]第三十五回中央図書館貴重文物展観目録 : 源氏物語

九州大学附属図書館中央図書館

今西, 裕一郎
九州大学文学部 : 教授

https://doi.org/10.15017/1485023

出版情報：大学広報. 813, pp.4-9, 1994-04-22. The Committee of Public Relations Kyushu University
バージョン：
権利関係：

主要展観資料解説

～源氏物語の本～

（中央図書館）

展観資料の展示，解説等につきましては，文学部助教授今西祐一郎氏のご尽力を頂きました。また，文学部の協賛を得，関係の方々にご協力を頂きました。ここに厚くお礼申上げます。

【本　　文】

1　近世初期写本　29帖29冊

支子文庫本。横本。本文は青表紙本系統で，夕顔，末摘花，花宴，賢木，須磨，明石，絵合，松風，薄雲，乙女，玉鬘，初音，胡蝶，螢，野分，行幸，真木柱，梅枝，若菜下，柏木，夕霧，御法，匂宮，橋姫，椎本，宿木，総角，東屋，浮舟の29帖。うち17帖に「紹巴以本句切朱点」，「以紹巴本朱点句切一校了」，「以紹巴校合朱点句切之本一校了」，「以紹巴自筆本句切朱点一校了」などの識語あり。紹巴は室町時代末期の連歌師，紹巴抄の著者で，源氏物語の書写にもたずさわった。

2　古活字版　54帖30冊〔文学部蔵〕

中世まで写本によって伝えられてきた和漢の典籍は，近世に入ると，続々と版本を見る。その出版活動の初期，慶長元和寛永年間は，後の整版本ではなく，木活字を用いた，いわゆる古活字版の時代というべく，源氏物語にも数種の古活字版の存在が知られる。本書は古活字版研究の権威，川瀬一馬『古活字版之研究』未載の十一行古活字本。桐壺巻々頭は『弘分荘古活字版目録』所載の久邇宮家旧蔵本，胡蝶巻々頭は「寛永木活字本」として『定本源氏物語新解』中巻付載の金子元臣氏蔵古活字版に同じ。

3　絵入源氏物語　（承応板）〔文学部蔵〕

蒔絵師を家業とするかたわら，松永貞徳の源氏講釈を受け，後に木下長嘯子門下の歌人となった山本春正（天和二，1682年没）によって出版された，最初の版本絵入源氏物語。絵は全二二六図で，以後の絵入源氏版本のみならず，仮名草子の挿絵にも影響を与えた。刊記は「承應三甲午稔八月吉日／洛陽寺町通／八尾勘兵衛開板」。ノドの部分に丁付けを有す。（清水婦久子「版本『絵入源氏物語』の諸本」（上）参照。）

4　絵入源氏物語写本　帚木1冊〔文学部蔵〕

大本。絵入版本を書写した本か。全七図の絵はすべて承応板と同じ場面を採り，うち六

図までは，構図も同一であるが，第一図のみ，承応板挿絵人物の数が異なる。頭注は寛文13年刊の首書源氏物語の首書（頭注）を適宜採用したもの。版本には存在しなかった頭注付き絵入り本を意図して作られた可能性がある。後人の手になる朱の傍注と，おびただしい付箋が残るが，朱の傍注は，本居大平，春庭両人の注であることが，巻頭に注記されており，鈴屋門下の手になると考えられる。蔵書印の「市岡暴行」なる人物は未詳。あるいは，鈴屋門の尾張藩士市岡猛彦にゆかりの本か。

5　近世中期写本　54帖54冊〔文学部蔵〕

大本。本文は青表紙本系統であるが，承応版本，首書，湖月抄等の整版本の本文とは小異あり，古活字版に近い。

【絵　　巻】

6　源氏物語歌絵　1軸（近世中期）

支子文庫本。近世中期写。四季・賀・祝の各部ごとに『源氏物語』からそれにふさわしい場面を絵と和歌で描出したもの。各部の拠った巻と場面は次の通りである。

「春」－花宴（宮中南殿の桜の宴，源氏と朧月夜との邂逅）
「夏」－常夏（源氏，玉鬘に内大臣家の人々を評する）
「秋」－少女（秋好中宮から紫上へ「紅葉の消息」）
「冬」－朝顔（童女達の雪まろばし）
「賀」－若菜下（正月，六条院女楽）
「祝」－藤裏葉（内大臣邸の藤の宴）

ただし，賀部は，歌なし。（物語中でもこの場面では歌は詠まれていない）。

【注　釈　書】

7　源氏奥入　（近世中期写）1冊

細川文庫本。大本袋綴。江戸中期写。題簽，内題とも「源氏物語奥入」。若干の朱筆によるミセケチ・傍書がある。奥書識語の類はない。本書は藤原定家の源氏物語注釈書。世尊寺伊行の『源氏釈』に続く初期の注釈書で，故事・出典・引歌の考証を主とし，語釈は少ない。本来，家定自筆本源氏物語の各巻末に記されていたものが切りだされ，一冊にまとめられたと言われる。諸本は，内容，分量，形態により第一次本，第二次本，別本に分類される。本書は別本系に属し，第一次本と第二次本の中間的存在である。

8　紫明抄抜書　応永25年（1418）写。1冊

表紙に「源氏物語注紫明抄抜書　白」と花押，内題「源氏物語紫明抄抜書」。

鎌倉時代，素寂の著した『紫明抄』は『源氏物語』注釈書の中でも初期に位置し，源光行・親行父子（素寂は親行の弟）から始まる河内方の研究書として現存最古の書。

本書は，奥書に「すゑつむ花までの内所々のうつしとゝむ也，応永二十五年卯月廿五日」とあるごとく，『紫明抄』の巻一（桐壷～末摘花巻）から一部抜き出したもの。『源氏物語』本文見出しが省かれて前項目から注釈部分のみが続いたり，反対に前項目の注釈に次項目の見出しのみが改行することなく続く箇所が散見し，完備した体裁をなしていない。「加持井御文庫」の印あり，梶井宮旧蔵本。

9　河海抄（近世中期写）20巻12冊

大本。音無文庫本。四辻善成著。源氏物語についての和漢の出典考証のみならず，語句の考証・注釈にも意を用いた本格的注釈書。室町幕府二代将軍足利利義詮の命により撰述。本書は蛍，椎本，浮舟，夢浮橋各巻末に識語（池田亀鑑『源氏物語事典』下に翻字あり）。玉鬘，若菜上，東屋巻などに，ほぼ一丁分相当の親本に由来する錯簡が見出され，また，疑問詞「歟」を多く「也」に誤るなど，書写は必ずしも精確ではない。「鳳鳴図書」，「子孫永保雲煙家蔵書記」の蔵書印。

10　源氏御談義　写本1冊。

大本。音無文庫本。『河海抄』の著者，四辻善成が至徳3年（1386）7月26日から嘉慶2年（1388）11月30日までの間に行なった源氏物語の講釈を大内家の家臣平井相助なる人物が筆録して，晩年，主家大内氏に献上した書。『千鳥（抄）』また『至徳記』ともいう。巻末に応永26年の平井相助の跋，後成恩寺三箇大事之外口傳條々，延徳3年秋9月日の槐下桑門藤斎の識語，河海抄与花鳥余情相違事，非人桑門明静奥書，源中最秘抄云ヤウメイノスケノ事，揚名介事他抄物云外記秘抄，源氏物語青表紙定家説河内本分別條々，兼載奥書，龍翔院奥書を記すこと，本文とともに黒川真頼旧蔵ノートルダム清心女子大学本に同じ。ただし本書には「非人桑門明静」奥書の後に「以上自筆青表紙夢浮橋巻奥書臨模也」の一行あり。（ノートルダム清心女子大学古典叢書第三期4『源氏物語御談義』参照）

11　花鳥余情　付休聞抄　承応3年（1654）写　30巻15冊

大本。支子文庫本。一条兼良著。四辻善成の『河海抄』を正し補うために著された注釈書。内容は語句のみならず文意の説明にまで筆が及び，注釈書として画期的な新しさをもった。初度本，再度本，献上本の三系統があるが，本書は初度本の系統で，上部余白の書き入れは，室町時代末に成立した里村昌休による『源氏物語』の注釈書『休聞抄』に通じる内容をもつ。奥書識語は第15冊末尾にのみ見える。始めに「此抄河海廿巻　花卅　弄花七巻

宗祇以来至宗牧説／天文十九孟秋上旬　昌休誌之／此奥書　昌休自筆透写之」という内閣文庫本系の『休聞抄』奥書に類する記載，ついで，文明四年兼良奥書と明応七年五月二日儀同三司（四条隆量）の識語を改行せず続け，その後に「以多本一校了　紹巴判／慶長十八癸巳仲冬□部書功／承応三年九月十一日　書写之　雅依（印）」。なお，京都大学附属図書館蔵『花鳥余情』も本書と同類の上部書き入れをもつ。太宰府神社文庫（天神文庫）旧蔵本。（源氏物語古注集成1『松永本花鳥余情』参照）

12　弄花抄　（近世中期写）7巻7冊

支子文庫本。列帖装。巻第二のみ金泥秋草模様を配した書写当時の表紙を残す。それ以外の巻の表紙は遊紙に後世題簽を付したもの。『弄花抄』は，室町時代，弄花軒と称した連歌師牡丹花肖柏（1443～1527）の『源氏聞書』をもとに，彼の源氏学を継承した三条西実隆（1455～1537）が永正元年（1504）と永正七年（1510）に諸説を増補整理，以後も適宜補訂した注釈書。その結果，第一次本系統，第二次本系統，後人の書き入れを含む増補本系統という三つの本文系統が生じた。支子文庫本は増補本系統本文の特徴を備える。

13　源氏物語覚性院抄　写本　25冊〔文学部蔵〕

大本袋綴。江戸中期写か。題簽に「覚性院抄帚木空蝉二」などと墨書（第一冊は剥落）。内題は「源氏物語聞書」。朱・紅・青・茶・の薄墨の書き入れ，付箋（剥落あり），色紙片貼りつけ等多数有り。奥書は穂久迩文庫本と同じく，定家自筆大橋氏本『奥入』の奥書のみを持つ。覚性院（覚勝院とも）の源氏物語注釈書。覚性院は覚性院の僧を指すかとされるが，未詳。青表紙系統の本文を全文掲げ，古注や三条西家（公条・実技）の説を記す。自注はごくわずかしか見られない。諸本は初期稿本系，通行本系，後期増補本系に分けられ（『源氏物語聞書覚勝院抄別冊』（汲古書院）参照），本書は自筆稿本と目される穂久迩文庫本と同じく初期稿本系に属し，穂久迩文庫本から直接の転写本か。

14　細流抄　（近世中期写）10巻10冊

音無文庫本。袋綴。一部（巻五・六・七・八）別筆。

三条西実隆（1455～1537）が永正七年（1510）の第二次本『弄花抄』完成直後から執筆にとりかかり，同十年（1513）には成立していたと考えられる注釈書。それを用いて実隆が行った源氏講釈で息子の公条による聞書が成立，その後，畠山義総の求めに応じて，この聞書を用い，二度に渡って適宜改訂した『細流抄』を送付した。息子の公条はこの聞書をもとに，『明星抄』を著している。このような成立過程を経たため，『細流抄』には複雑な本文系統が生じたが，音無文庫本は，実隆が永正十年までに作成させ源氏講釈に用いた本と同じ系統に属する。

15　万水一露抄　（近世中期写）54巻54冊

音無文庫本。袋綴。連歌師能登永閑（生没年未詳）が天正三年（1575）に完成した注釈書。先行注釈書の説を引用するほかに，師である連歌師宗碩や永閑自身の解釈を加えるなど，当時の連歌師の『源氏物語』享受の一面を窺わせる。本書は河野信一記念文化館蔵の『万水一露抄』五十四冊と本文のみならず，各葉の行数，各行の字詰振り仮名の有無に至るまで一致する。

16　紹巴抄　（無刊記版本）20巻20冊

音無文庫本。内題「源氏物語抄」。『休聞抄』を著した連歌師里村昌休の弟子里村紹巴が，永禄6年（1563）の三条西公条の『源氏物語』講釈の聞き書きをもとに作成，永禄8年春成立。内容は，語句の解釈を中心とし，文意理解を主たる目的とした諸注集成。

【梗概書・系図・その他】

17　袖鏡　（慶長期写）5巻5冊

袋綴。縦32.7×横25.2cmの特大本。中世には，源氏物語の梗概書として，源氏大鏡，源氏小鏡などが作られたが，本書は，源氏大鏡二類本に属する一本。源氏物語中の和歌をほとんどすべて挙げる他，本文を省略しながら梗概を述べ，引歌引詩，語釈などを記す。本書の特徴は，源氏物語の原文を相当量そのまま用いている点にあり，中世に流布した源氏物語本文の系統を知る上で貴重である。書写年代は，書風，装禎などから考えて慶長前後と推測される。源氏大鏡諸本の中でも，極めて古い時期の書写にかかるもの。各冊巻頭に「鑒水」の印。

〔在九州国文資料影印叢書　細川文庫本『袖鏡』解説参照〕

18　源氏大鏡　3巻3冊〔文学部蔵〕

大本袋綴。江戸初中期写か。題簽なく，表紙左肩打ち付けに「源氏　天（地，人）」と朱書。内題なし。墨書による若干の書き入れ，ミセケチあり。奥書識語の類はない。『源氏物語』の梗概・注釈書。著者未詳。南北朝時代成立か。梗概を巻順に述べ，随時，語釈・有職故実・和漢の故事・引歌・人物の系図関係が記される。本書は源氏大鏡三類本に属する。本文に若干の脱文が見られるが，三類本は伝本自体が少なく，善本はわずかであるため，本書の資料性は高い。（田坂憲二「九大本『源氏大鏡』について―付，『源氏大鏡』三類本本文と校異（序・桐壺）―」（『文献探究』第十五号昭和60年2月）参照）

19　源氏小鏡　写本1冊〔文学部蔵〕

『源氏小鏡』は，南北朝時代の公卿花山院長親（明魏）作と伝える源氏物語の梗概書。伝来の過程で種々の異本が発生したが，大きく古本系（源氏物語の作中歌を110首前後含む）と改訂本（同じく，130首前後含む）に分けられる。本書，帋魚庵旧蔵本は列帖装，内容は古本系統であるが，うち若紫巻「いはけなき」，常夏巻「なでしこの」，藤袴巻「たづぬるに」の三首を欠く一方で，幻巻に「植をきし花のあるしもなき中にしらずがほにてきゐるうぐひす」，早蕨巻に「君にとてあまたのとしをつみしかばつねを忘ぬはつわらびなり」の歌を有す。とくに「君にとて」歌は，130首本系統諸本になく，異本にのみ見える歌である点が注目される。

20　源氏小鏡　（古活字版　零本）1冊

支子文庫本。澪標巻より紅梅巻まで。本文は百十首本。ただし，常夏巻「なでしこの」，野分巻「おほかたの」，藤袴巻「たづぬるに」の三首を欠く。本書は川瀬一馬『古活字版之研究』，『国書総目録』で，田村専一郎氏蔵元和古活字版として紹介された本。

21　源氏物語系図　写本1帖

細川文庫本。大本折本。江戸初期写。題簽「源氏系図」，内題なし。付箋によるルビあり。『源氏物語』読解の便のため，作中人物を身分別家系ごとに系図にまとめ，簡単な略歴を付したもの。別に系図に入らない人を一括する。諸本は(1)三条西実隆以前の古系図，(2)実隆が肖柏・宗祇らの協力を得て長享二年に整理した系図の流れを汲むもの，(3)北村久備『すみれ草』（文化九年刊）以後のものに分かれる。本書は(2)に属し，その中でも最初期の長享二年奥書本にあたる。

22　源氏物語抜書　写本1冊

支子文庫本。袋綴，小型桝形本。縦11.6×横9.5cm，126丁。著（筆）者未詳。桐壷巻から早蕨巻まで，「野分たちてにはかにはた寒き夕暮の程，つねよりもおほしいつる事多くて，更衣の母君に御使のまいるさま」のごとく，主要場面の要約と歌を抜粋。絵師・絵屋における源氏絵用の手控えか。

【特別展示】

花鳥余情　〔福岡女子大学蔵〕

※　その他数十点，九州大学に蔵する源氏物語関係書を全て展示する。